

検収基準書

(令和7年4月1日改訂)

一般社団法人 重仮設業協会

目 次

☆ 鋼矢板	1
☆ H形鋼	9
☆ 鋼製山留	15
☆ 覆工板 (T 2 0 型)	20
☆ 覆工板 (T 2 5 補強型)	24
☆ 鋼板	28

鋼矢板

項目	検 収 基 準
----	---------

検 尺

長さは有効長部分を50cm単位とし、端数については24捨25入とします。

- 例：5m50cm = 5m25cmから5m74cmまで
 6m00cm = 5m75cmから6m24cmまで
 6m50cm = 6m25cmから6m74cmまで

検 収

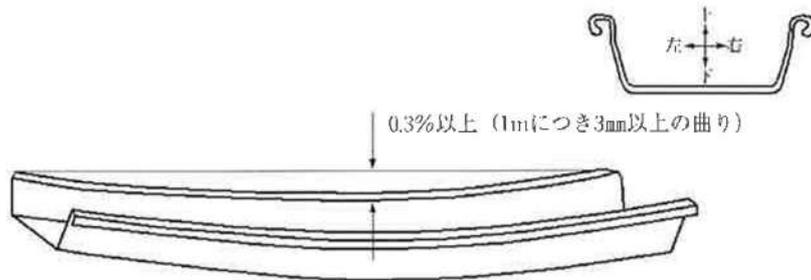
一般修理
 整備

特別修理

- (1)小口切断
 (2)特別曲り

土砂のケレン

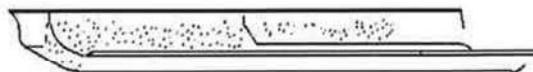
- ▷ 1. 端部又は中間部のスクラップ切断を要する場合。
 ▷ 1. 鋼矢板の上下方向に湾曲しているもので、再生可能な場合
 (長さの0.3%以上の曲り)。



- ▷ 2. 局部的に曲ったもので、再生可能な場合。

(3)特別ケレン

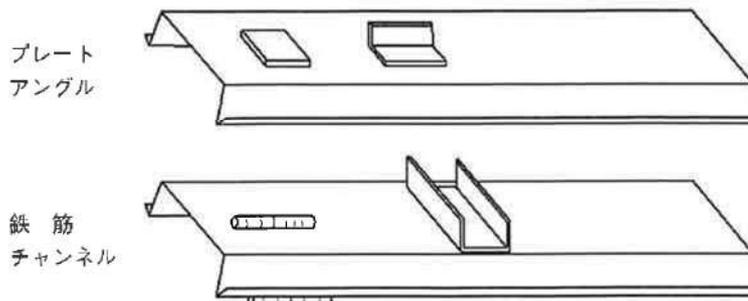
- ▷ 1. コンクリート等の付着物が除去可能な場合。
 ▷ 2. 大量の泥土が付着し、通常のケレンができない場合。



- ▷ 3. 止水材 凝固剤等が付着していて除去可能な場合

(4)付着物切断

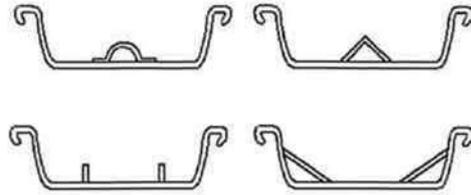
製品にプレート、鉄筋、アングル、チャンネル等が溶接されて返還された場合
 (1ヶ所当りと換算する場合は300mm単位とします)。



鋼矢板

項目	検収基準
----	------

その他



(5) 穴埋

所定の吊穴以外の穴で、鋼矢板端部から400mm以上にある穴

● 所定の吊穴とは、下図形状の通り片側にあけられた穴。

・ ウェブの場合

鋼矢板端部から50～350mmの位置で、 $\phi 20 \sim 80$ mmまでの穴。

一端部側一個。

・ フランジの場合

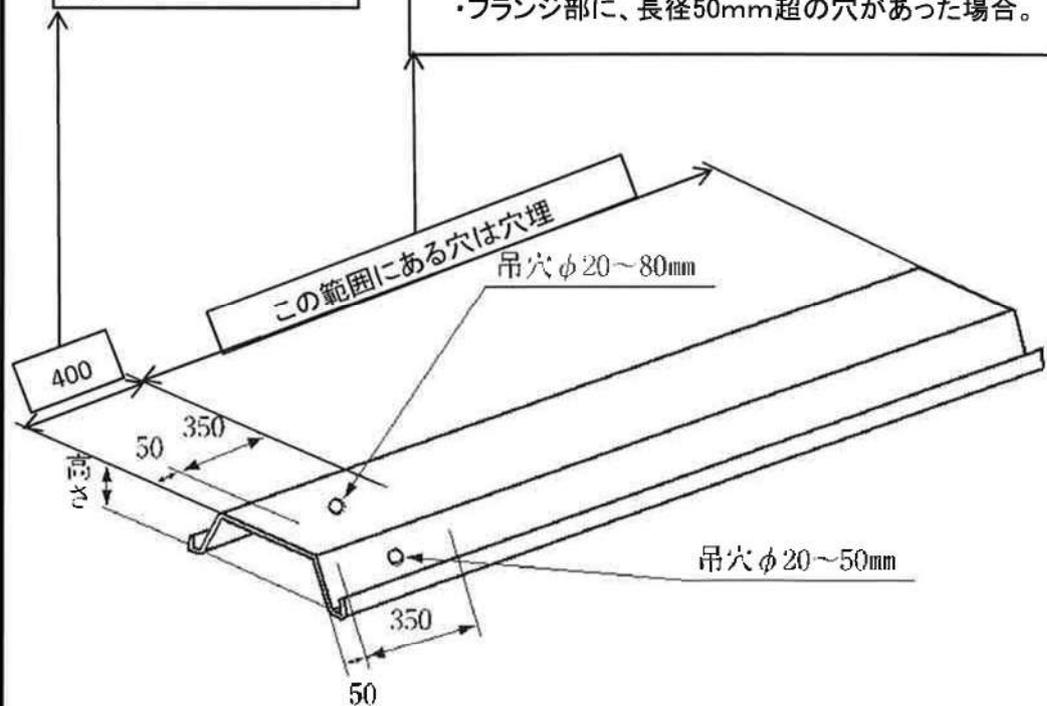
鋼矢板端部から50～350mmの位置で、 $\phi 20 \sim 50$ mmとし高さの中心にある穴。

片側端部で一個、両側で二個。

所定の吊穴以外の穴で、この範囲にある穴は、穴埋め不可とします。

但し、以下の穴があった場合、穴埋め不可とします。

- ・ 穴埋めできない穴があった場合。
- ・ ウェブ部に、長径80mm超の穴があった場合。
- ・ フランジ部に、長径50mm超の穴があった場合。



鋼矢板

項目	検収基準
----	------

(6)短尺補償

スクラップ

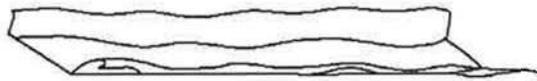
出庫長の70%未満で返還された場合（有効長を対象とする）。

▷ 1. 再生不可能と判断される場合。

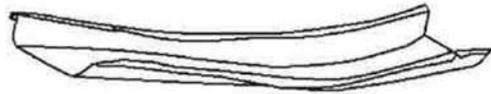
極端な曲り



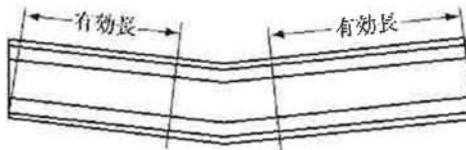
波をうって曲がっている場合



修理不能な上下の曲り



修理不能な左右の曲り

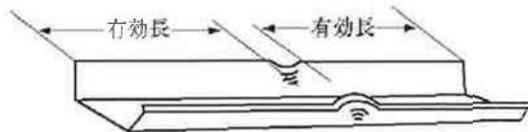


●ねじれ、ワイヤーシボリ、局部的変形等がある場合

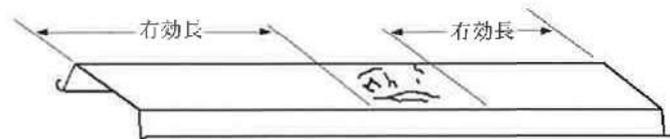
ねじれているもの



ワイヤー絞り



局所的な変形



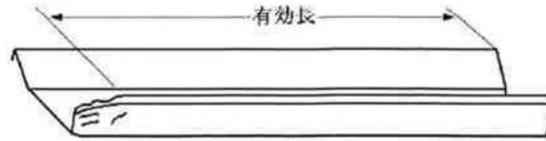
鋼矢板

項目	検 収 基 準
----	---------

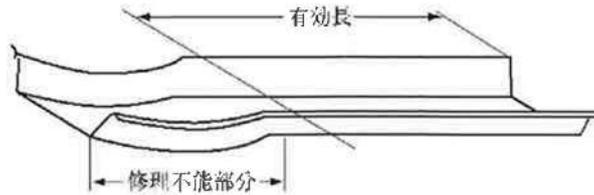
スクラップ

- 両端部の潰れ、ねじれ変形等で切断を要する場合

端部の潰れ、ねじれ



端部曲り

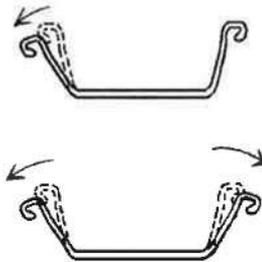


- 鋼矢板フランジ部の開き・つぼみ・タレがあった場合スクラップ。

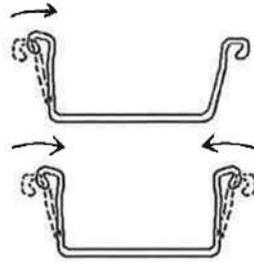
以下の図のような、鋼矢板のフランジの変形があった場合スクラップ

- ① フランジの開き
- ② フランジのつぼみ
- ③ フランジのタレ

① フランジの開き



② フランジのつぼみ



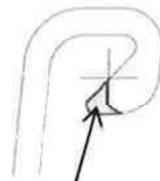
③ フランジのタレ



- ▷ 2. 使用に耐えないと判断される場合。

セクション部のすれ(摩耗)・開き・潰れがあった場合スクラップ(切断して有効長を満たせばその部分は有効)

セクションのすれ

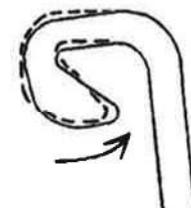


セクションのすれ

セクションの開き



セクションの潰れ

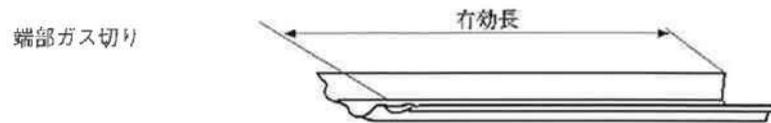
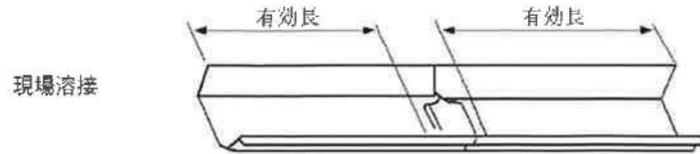


鋼矢板

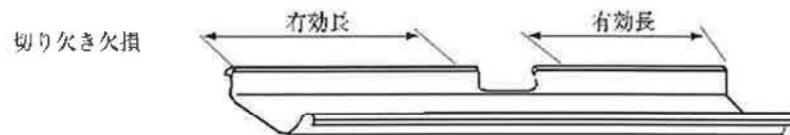
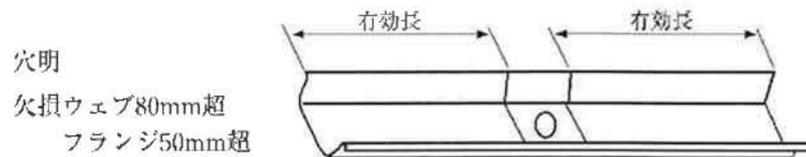
項目	検収基準
----	------

スクラップ

- ▷ 3. 現場での溶接及び端部の切り口が不良な場合。



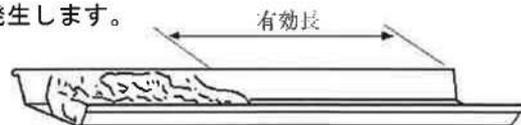
- ▷ 4. 鋼矢板の強度を大きく減退させる穴または切り欠き欠損がある場合。



- ▷ 5. コンクリート、その他の付着物が除去できない場合。

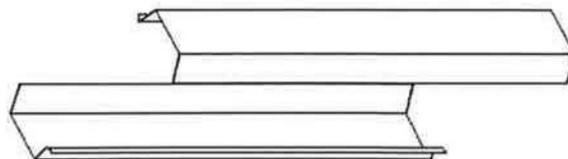
別途、付着物の処理費用が発生します。

コンクリート付着



- ▷ 6. 上記各項が製品の中途にある物は「中切」として処理します。この場合残材が下記の短尺に含まれるものはスクラップとします。

- ▷ 7. 鋼矢板が2枚以上連結して返還された場合。



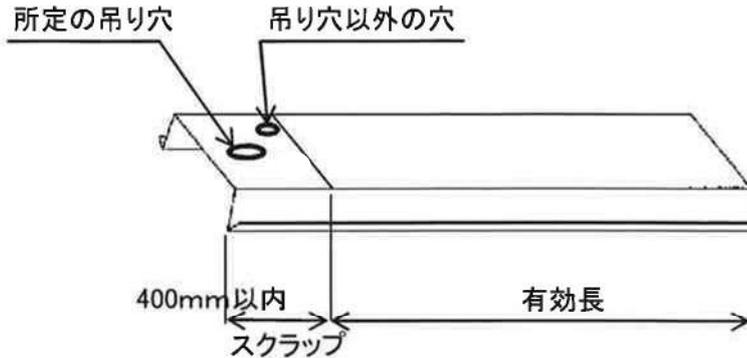
鋼矢板

項目	検収基準
----	------

スクラップ

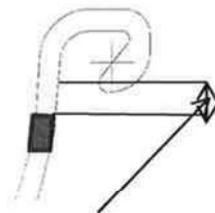
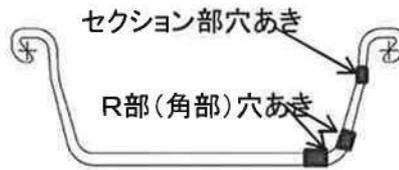
▷ 8. 穴埋めができない穴があった場合

- 1) 鋼矢板端部より400mm以内のウェブ面に吊穴以外の穴があった場合スクラップとなります。



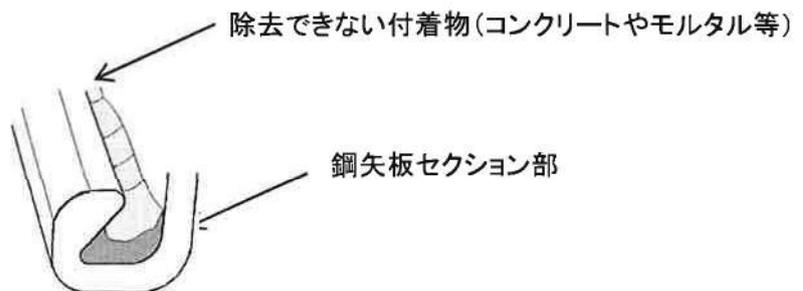
- 2) 鋼矢板の以下項目の位置に穴が開けられていた場合スクラップ。

- ① 鋼矢板のセクションから10mm以内に穴があった場合
- ② 鋼矢板のR部(角部)に穴があった場合



ここ寸法が10mm以内はスクラップ

▷ 9. 鋼矢板セクション部の損傷、又は除去できない付着物(コンクリートやモルタル等)があった場合。

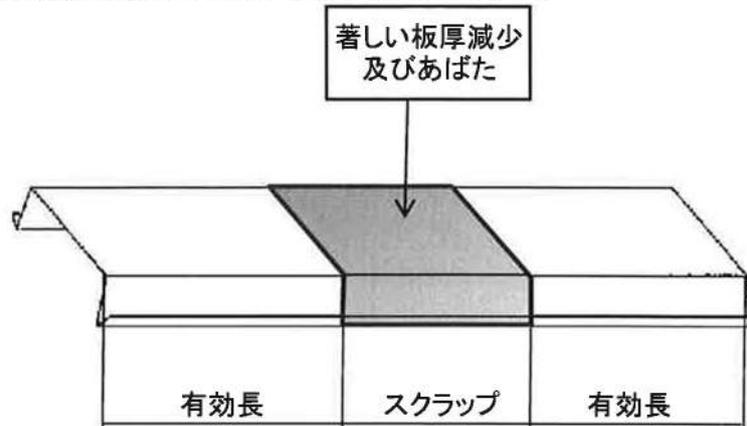


鋼矢板

項目	検 収 基 準
----	---------

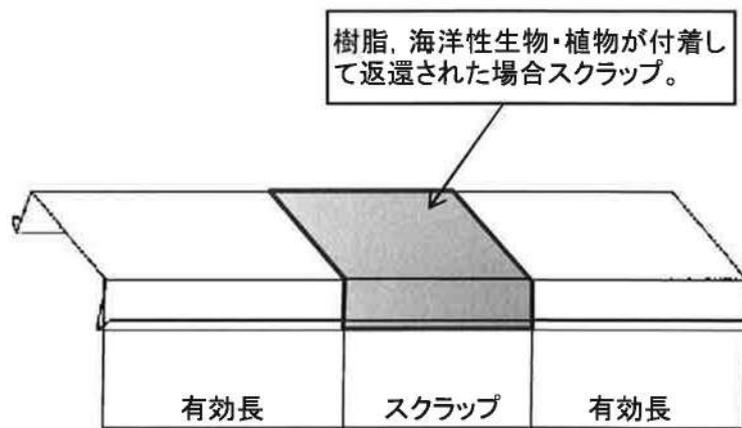
▷ 10. その他事項

- 1) 板厚減少(表面あばた含む)が著しい場合スクラップ。



※ 特に海洋使用時において、潮の満ち引きの影響により板厚の減少が著しい。

- 2) 樹脂、貝殻や藻等の海洋性生物・植物等(産業廃棄物)が付着して返還された場合スクラップ。



※ 樹脂、海洋性生物・植物等が付着した場合は現場にて除去後返却してください。

※ 樹脂とは、鋼矢板と土砂の摩擦を軽減するため使用される塗布剤で、通常ケレン(ケレン棒によるケレン又は水洗等)で剥離しないシート貼付けタイプは、シート貼付け部をスクラップとする。

鋼矢板

項目	検 収 基 準
----	---------

- ▷ 11. 商品価値が著しく低下したと判断される場合。
- ▷ 12. 有効長が下記の短尺に含まれるものは、スクラップとします。
 - SP-2型 4.0m未満
 - 3" 5.0m " (3型コーナー 6.0m未満)
 - 4" 8.0m " (4" " 8.0m ")
 - 5L 9.0m " (5L " 10.0m ")

軽量鋼矢板

鋼矢板の検収基準に準じます。

ただし有効長については下記の短尺に含まれるものはスクラップとします。

- LSP-1型 2.5m未満
- 2" 2.5m "
- 3" 3.0m "

H形鋼

項目	検収基準
----	------

検尺

長さは有効部分を50cm単位とし、端数については24拵25入とします。

- 例： 5m50cm = 5m25cmから5m74cmまで
 6m00cm = 5m75cmから6m24cmまで
 6m50cm = 6m25cmから6m74cmまで

ただし、桁材（H594）は実寸とします。

検収

一般修理
 整備

特別修理

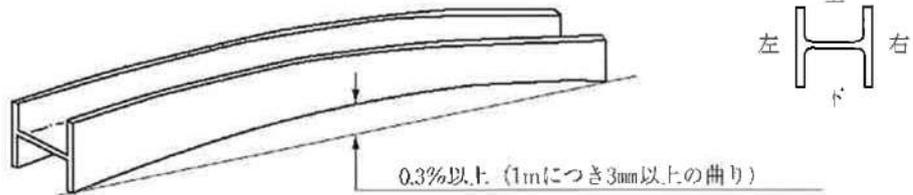
(1)小口切断

(2)特別曲り

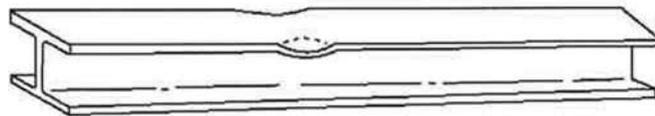
上砂のケレン。

▷ 1. 端部又は中間部のスクラップ切断を要する場合。

▷ 1. 上下方向に湾曲しているもので、再生可能な場合。



▷ 2. フランジの凹凸の深さが20mm以内で再生可能な場合。

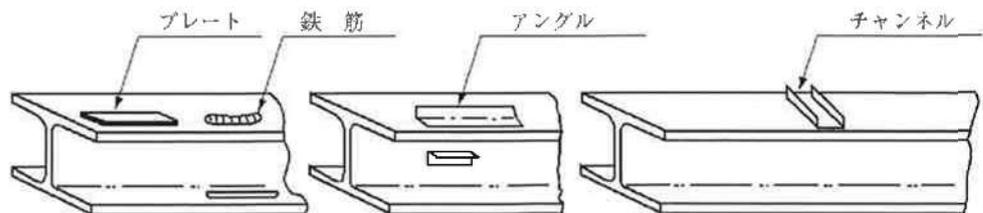


(3)特別ケレン

- ▷ 1. コンクリート等の付着物が除去可能な場合。
 ▷ 2. 大量の泥土が付着し、通常のケレンができない場合。
 ▷ 3. 樹脂、凝固剤等が付着して除去可能な場合

(4)付着物切断

製品にプレート、鉄筋、アングル、チャンネル等が溶接されて返還された場合
 (1ヶ所当りと換算する場合は300mm単位とします)。

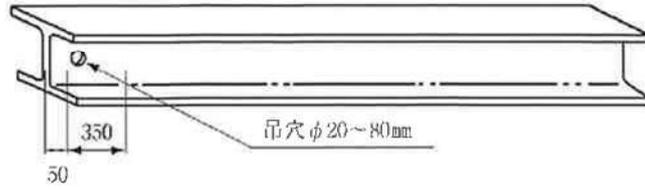


H形鋼

項目	検収基準
----	------

(5) 穴埋

所定の吊穴（端部から50～350mmの位置でφ20～80mmの穴。一端部側一個）以外の穴。



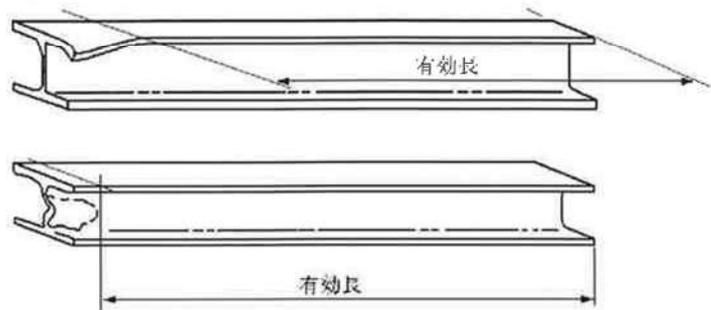
**(6) 短尺補償
スクラップ**

出庫長の70%未満で返還された場合（有効長を対象とする）。

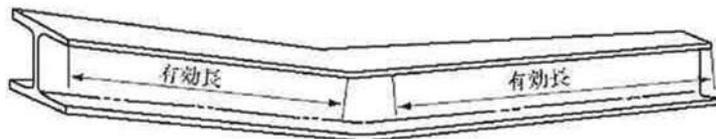
▷ 1. 再生不可能と判断される場合。

● 端部曲りがある場合

フランジまたは
ウェブが上下に
曲っている場合

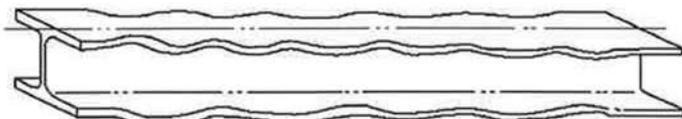


● 中間曲りがある場合

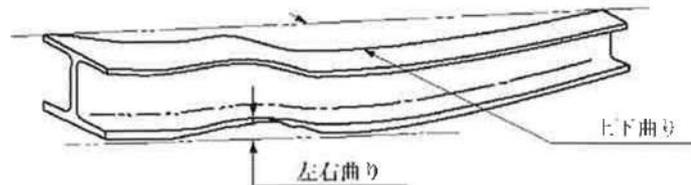


● 全長スクラップになる場合（有効長に満たない場合）

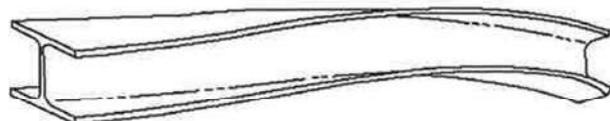
フランジが波を
うっている場合



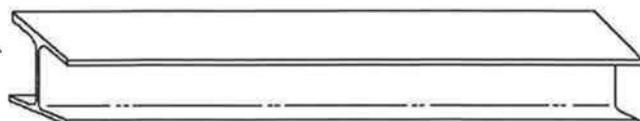
修理不能な
上下、左右
の曲り



ねじれている場合



フランジが開いたり、
狭まっている場合



H形鋼

項目	検収基準
----	------

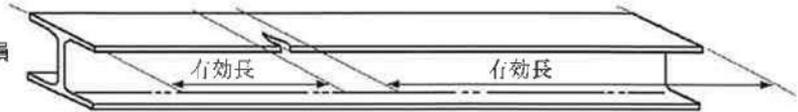
スクラップ

左右の曲り

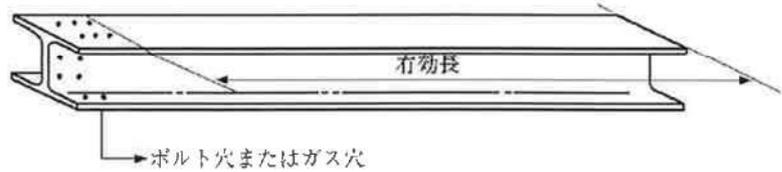


- ▷ 2. フランジ面に切込み欠損があるものまたは50cm以内に5ヶ所以上の穴あけがある場合。

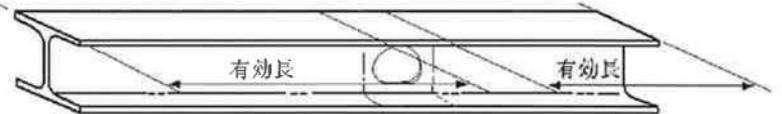
切込み欠損



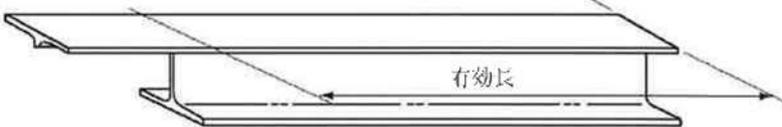
穴明



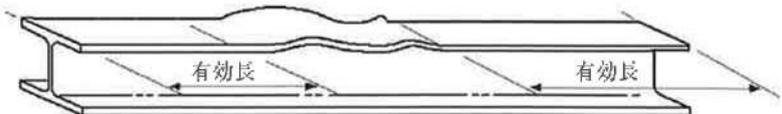
- ▷ 3. 強度を大きく減退させる穴またはウェブに80mmを超える欠損がある場合。



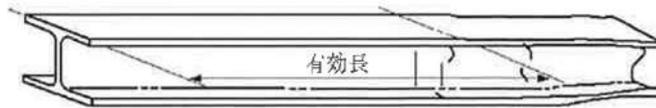
- ▷ 4. 片フランジ及びウェブのない場合。



- ▷ 5. フランジの凹凸の深さが20mm以上の場合。



- ▷ 6. ウェブが座屈している場合。

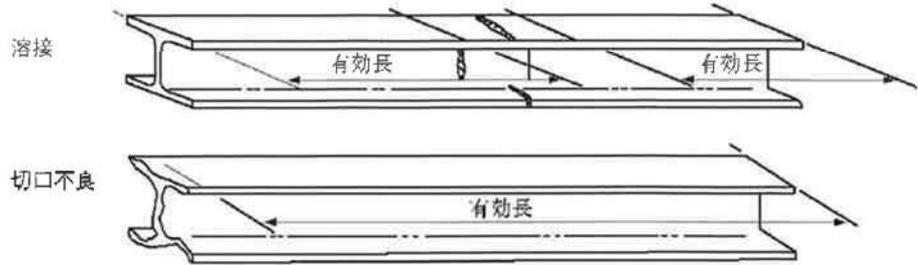


H形鋼

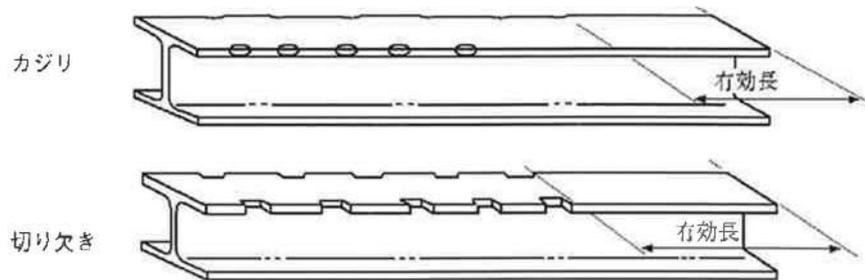
項目	検収基準
----	------

スクラップ

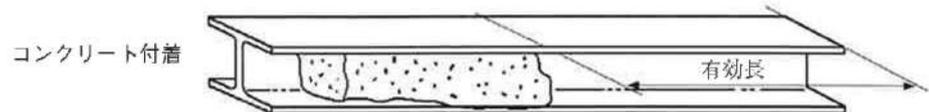
- ▷ 7. 現場での溶接及び端部の切り口が不良の場合。



- ▷ 8. カジリ、切り欠きがある場合。

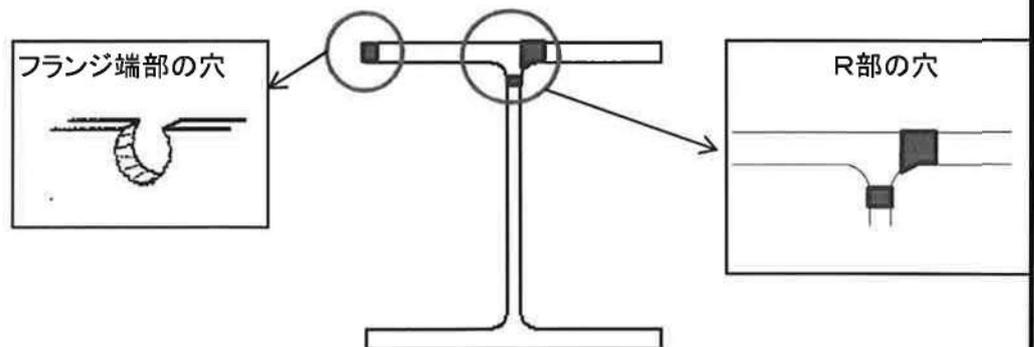


- ▷ 9. コンクリート、その他の付着物が除去できない場合。
別途、付着物の処理費用が発生します。



- ▷ 10. 上記各項が製品の中途にある場合は「中切」として処理します。この場合残材が下記の短尺に含まれるものはスクラップとします。

- ▷ 11. H形鋼のR部分の穴・フランジ端部に穴があった場合。



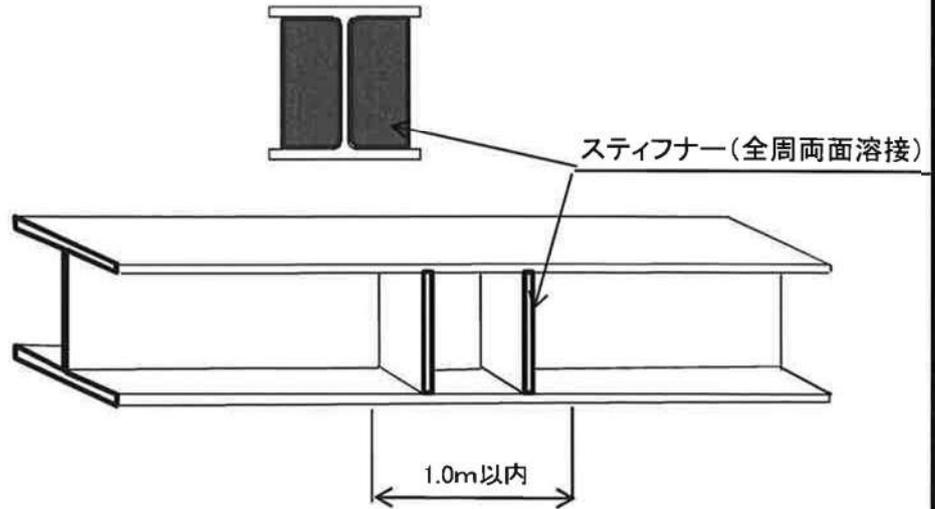
H形鋼

項目	検収基準
----	------

スクラップ

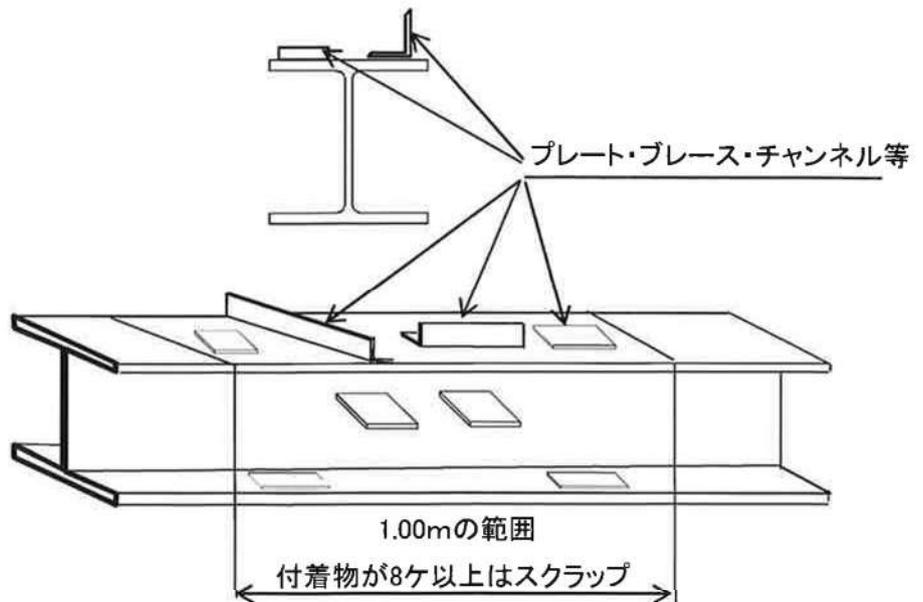
▷ 12. H形鋼に付着物(アングル・プレート・チャンネル等)が溶接されて返還され、以下1), 2)に該当する場合。

- 1) 1.0m以内にスティフナー等が下図のように、片側2+2枚、全部で4枚の場合は、付着物取り外しとなるが、それ以上のスティフナーがあった場合スクラップ。



※ 上図のように、片側2+2枚、全部で4枚の場合は、付着物取り外しとなる。

- 2) プレース・継材・ブラケット等の付着物が1.0mの間に8ヶ以上着いていたらスクラップ



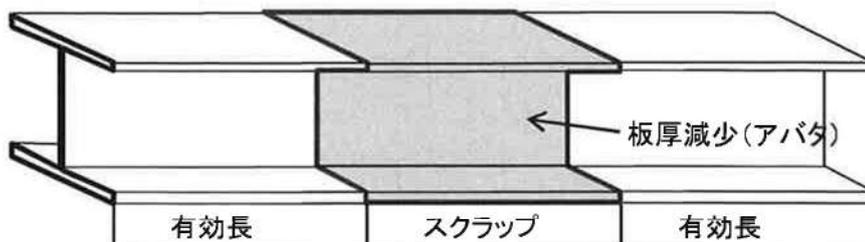
H形鋼

項目	検 収 基 準
----	---------

スクラップ

▷ 13. その他事項

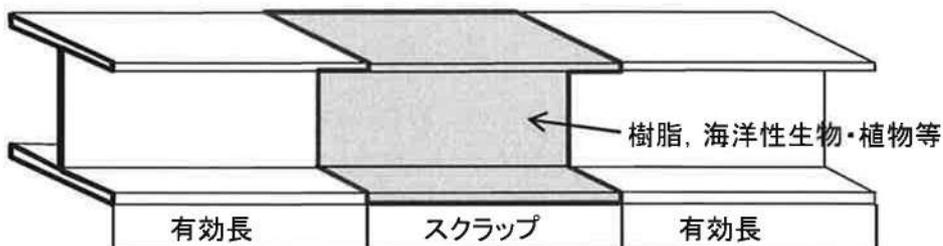
1) H形鋼の板厚減少(表面あばた含む)が著しい場合スクラップ。



※ 板厚減少が著しいとは、フランジ端が丸くなって返還された場合。

※ 特に海洋使用時において、潮の満ち引きの影響により板厚の減少が著しい。

2) 樹脂、貝殻や藻等の海洋性生物・植物等(産業廃棄物)が付着して返還された場合スクラップ。



※ 樹脂、海洋性生物・植物等が付着した場合は現場にて除去後返却してください。

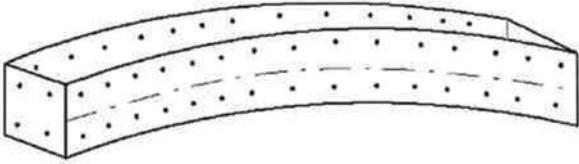
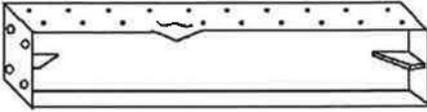
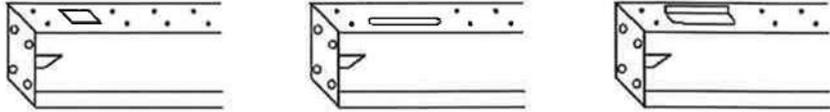
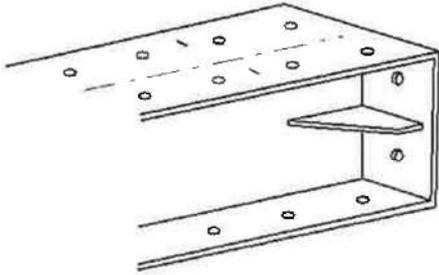
※ 樹脂とは、H形鋼と土砂の摩擦を軽減するため使用される塗布剤で、通常ケレン(ケレン棒によるケレン又は水洗等)で剥離しないシート貼付けタイプは、シート貼付け部をスクラップとする。

▷ 14. 商品価値が著しく低下したと判断される場合

▷ 15. 有効長が下記短尺に含まれるものはスクラップとします。

H-200	4.0m 未満
H-250	4.0m 未満
H-300	5.0m 未満
H-350	6.0m 未満
H-400	6.0m 未満
H-594	7.0m 未満

鋼製山留

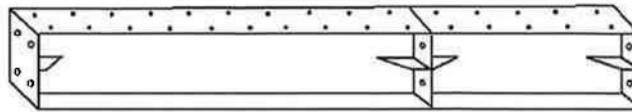
項目	検 収 基 準
検 収 一般修理 整備 特別修理 (1)特別曲り	<p>土砂のケレン、サビ止め塗装の実施</p> <p>▷ 1. 上下に湾曲しているもので再生可能な場合。</p>  <p>▷ 2. 部分的な変形で再生可能な場合。</p> 
(2)特別ケレン	<p>▷ 1. コンクリート等の付着物が除去可能な場合。</p> <p>▷ 2. 樹脂、凝固剤等が付着していて除去可能な場合。</p>
(3)付着物切断	<p>製品にプレート、鉄筋、アングル、チャンネル等が溶接されて返還された場合 (1ヶ所当りと換算する場合は300mm単位とします)。</p>  <p style="text-align: center;">プレート 鉄 筋 アングル、チャンネル</p>
(4)穴埋	<p>エンドプレートを除く所定位置のボルト穴以外は全て穴埋の対象となります。 穴の大きさは30mm未満とします。 (ただし、500mmに4ヶ所以内)</p> 

鋼製山留

項目	検収基準
----	------

(5)ボルトバラシ

主材、部材がボルトで結合されたまま返還されたもので、ボルト1本につき1ヶ所とします。



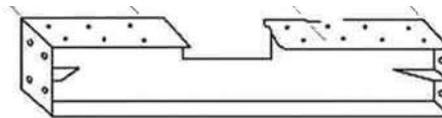
(6)短尺補償

出庫長の70%未満で返還された場合（有効長を対象とします）。

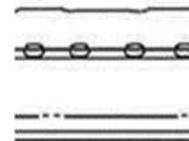
スクラップ

- ▷ 1. 上記の特別曲り、特別ケレン、短尺補償等で再生不可能な場合。
- ▷ 2. フランジ、ウェブにφ30mm以上の穴がある場合。
- ▷ 3. フランジ、ウェブ500mm以内に5ヶ所以上の穴がある場合。
- ▷ 4. エンドプレートに「穴」「切り欠き」「曲り」がある場合
- ▷ 5. フランジに欠損があるもの及びフランジ部にガス切り欠きカジリがある場合。

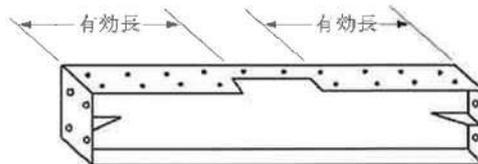
欠損



カジリ

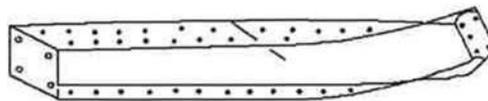


切り欠き

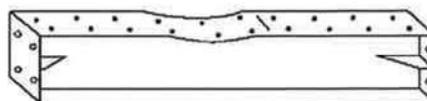


- ▷ 6. 主材に全体的なねじれがある場合、ウェブが挫屈した場合。

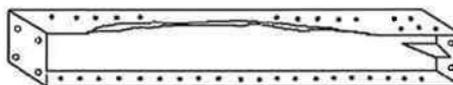
ねじれ



座屈



フランジ開き

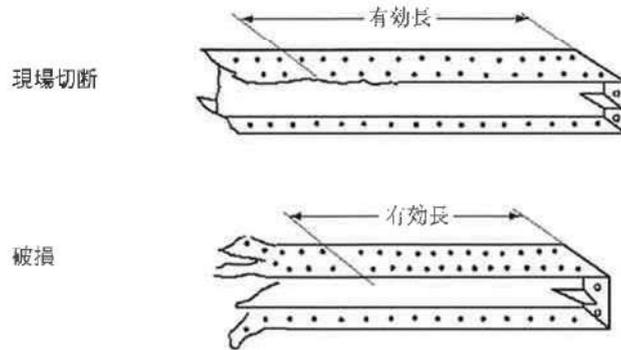


鋼製山留

項目	検収基準
----	------

スクラップ

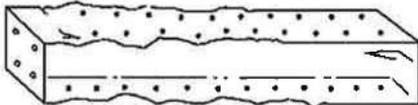
- ▷ 7. 現場で切断されて返還された場合。



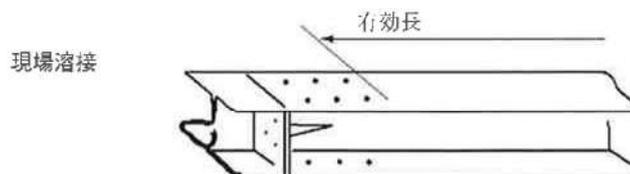
- ▷ 8. ウェブにコンクリートが詰まっている場合。
別途、付着物の処理費用が発生します。



- ▷ 9. 山り、小波が連続している場合。



- ▷ 10. 現場溶接されて返還された場合。



- ▷ 11. 樹脂、貝殻や藻等の海洋生成物・植物等（産業廃棄物）が付着して返還された場合スクラップ。

以上の場合はエンドプレート取り替え、ボルト穴明等の定尺加工とし、残りはスクラップとします。

ただし、中切及び製品長が3.0mに満たないものはスクラップとします。

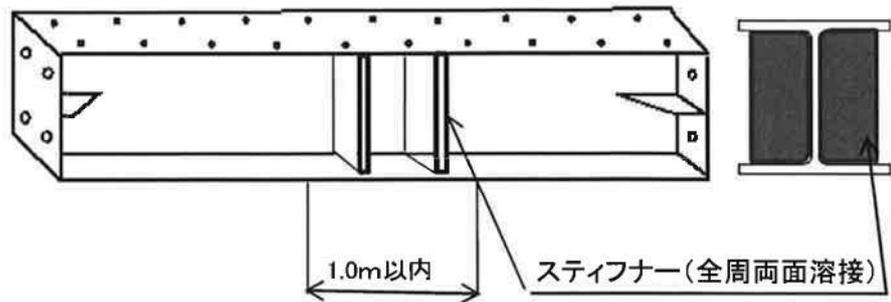
鋼製山留

項目	検収基準
----	------

スクラップ

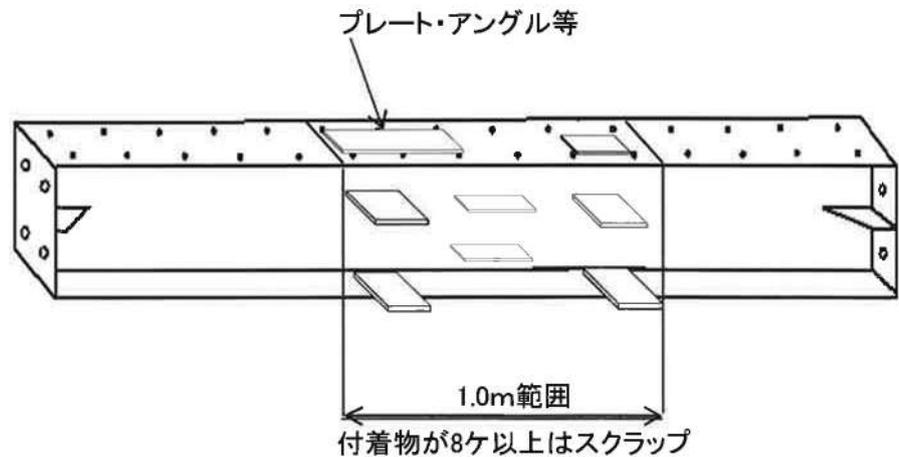
▷ 11. 鋼製山留材に付着物(アングル・プレート・チャンネル等)が溶接されて返還され、以下1), 2)に該当する場合。

- 1) 1.0m以内にスティフナー等が下図のように、片側2+2枚、全部で4枚の場合は、付着物取り外しとなるが、それ以上のスティフナーがあった場合スクラップ。



※ 上図のように、片側2+2枚、全部で4枚の場合は、付着物取り外しとなる。

- 2) プレート・アングル等の付着物が1.0mの間に8ヶ以上溶接されて返還された場合スクラップ。



▷ 12. 商品価値が著しく低下したと判断される場合

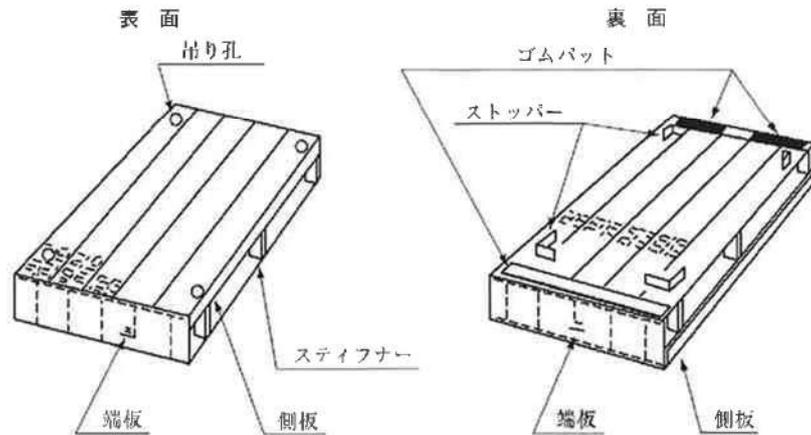
鋼製山留

項目	検 収 基 準
<p>部 材</p> <p>1.特別ケレン 2.付着物切断 3.穴埋 4.ボルトバラシ 5.ジャッキハンドル 取替費 6.計器類のオーバー ホール費 7.スクラップ</p>	<p>主材に準じます。</p> <p>1) 1. 2. 3. で再生不可能な場合。 2) 強度及び商品価値を著しく低下させると判断されるもの。 3) B部材は以下のとおりとします。</p> <p>① キリンジャッキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ネジが外され返納された場合 ●ネジ山が損傷された場合 ●プレートの大曲りまたは片面に4ヶ所以上穴明けされた場合 <p>② 油圧ジャッキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●破損により再使用不能と判定した場合 ●プレートの大曲りまたは片面に4ヶ所以上穴明けされた場合 <p>③ 油圧ポンプ及びホース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●破損により再使用不能と判定した場合 ●ホースが切断された場合

覆工板(メロデッキ)

項目	検収基準
----	------

製品図形及び各部の名称



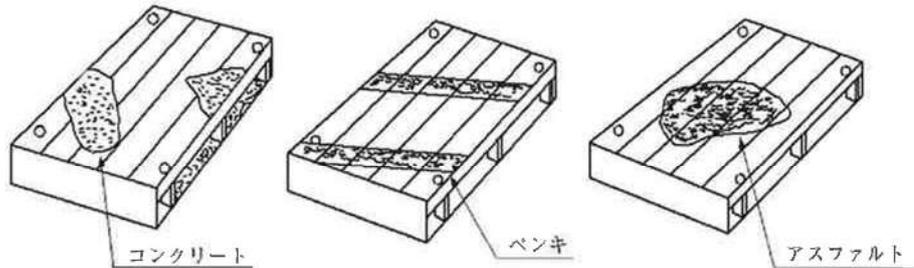
検収

一般修理
整備
特別修理

(1) 特別ケレン

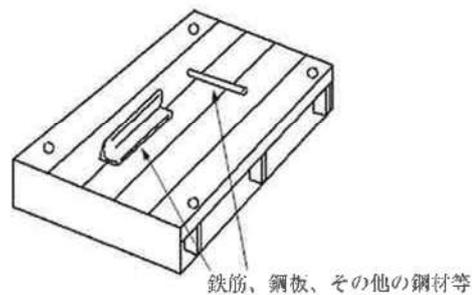
上砂のケレン、サビ止め塗装の実施。

- ▷ 1. コンクリートまたは大量の泥上が付着し、通常のケレンでは除去できない場合。
- ▷ 2. 表面等にベンキ、アスファルト、樹脂等の付着物がある場合。



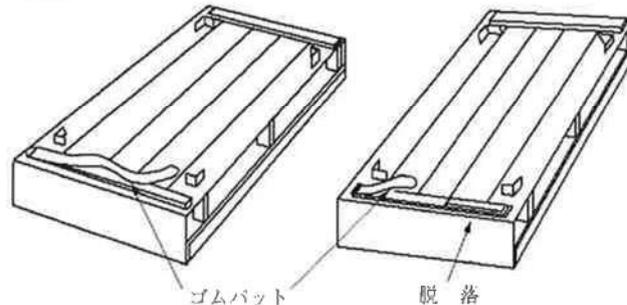
(2) 付着物切断

鉄筋、鋼板、その他の鋼材等の付着物がある場合
(1ヶ所当たりと換算する場合は300mm単位とします)。

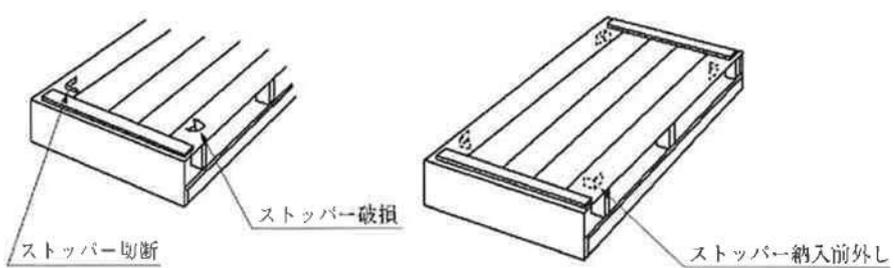
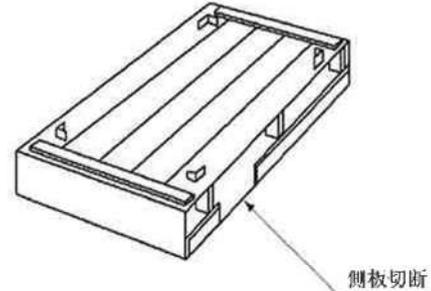
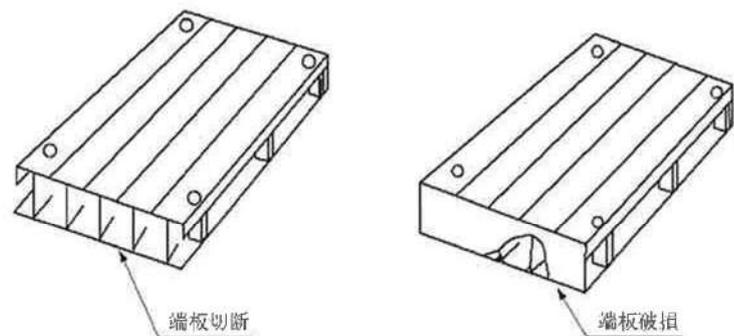
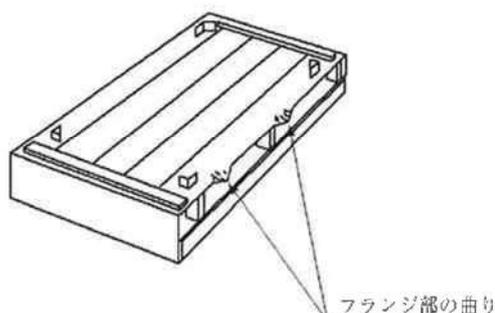


(3) ゴムパット
取替

ゴムパットが脱落または損傷している場合。



覆工板(メロデッキ)

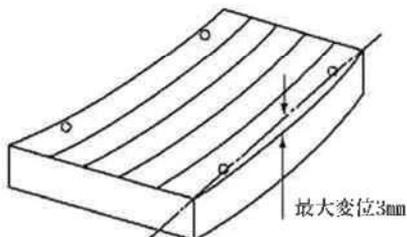
項目	検 収 基 準
<p>(4) ストッパー取替</p>	<p>▷ 1. ストッパーが切断または破損した場合、及び曲り等で再生が不可能な場合。 ▷ 2. 顧客の指示によりストッパーを取り外して納入した場合。</p> 
<p>(5) 側板取替</p>	<p>側板が切断または破損した場合、及び曲り等で再生が不可能な場合。</p> 
<p>(6) 端板取替</p>	<p>端板が切断または破損した場合、及び曲り等で再生が不可能な場合。</p> 
<p>(7) 曲り直し</p>	<p>縞目形鋼のフランジ部の曲りで再生可能な場合。</p> 

覆工板(メロデッキ)

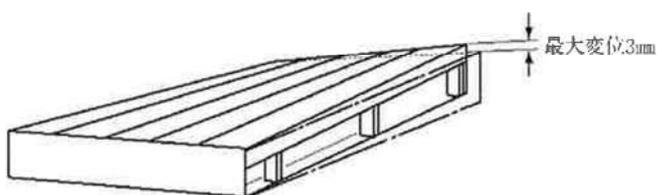
項目	検収基準
----	------

スクラップ

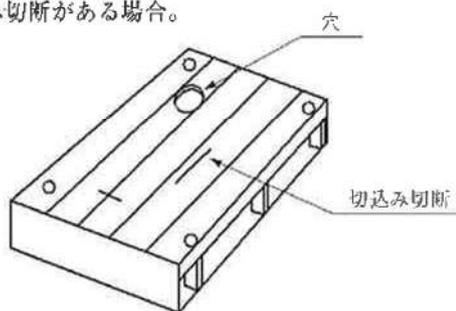
▷1. 反り、ねじれ、曲りの最大変位が3mm以上の場合。



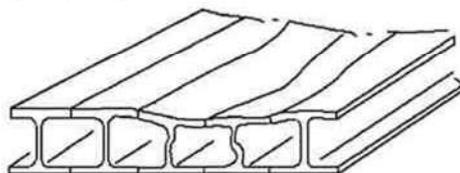
本体のねじれの最大変位が3mm以上の場合。



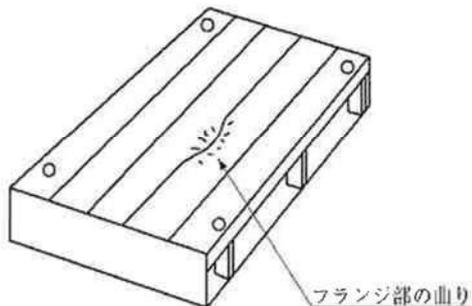
▷2. 穴および切込み切断がある場合。



▷3. ウェブに座屈がある場合。



▷4. 縞H形鋼のフランジ部の曲りが著しく、再生が不可能な場合。

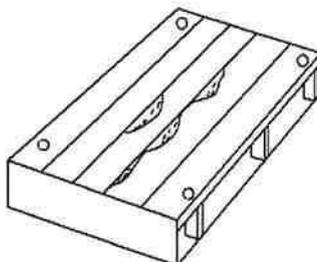


覆工板(メロデッキ)

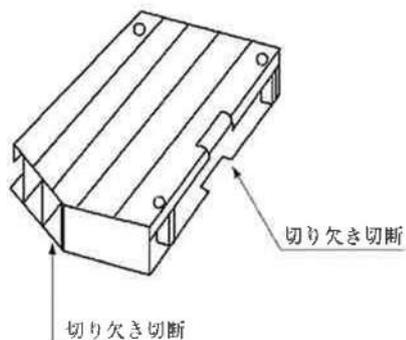
項目	検収基準
----	------

スクラップ

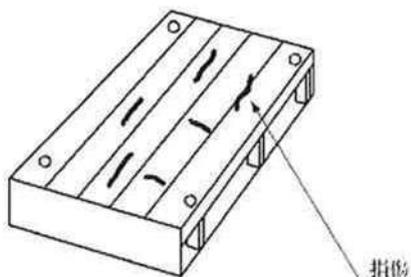
- ▷ 5. 縞H形鋼のフランジ部の曲り（凹み）が連続的にある場合。



- ▷ 6. 端部が欠損している場合。



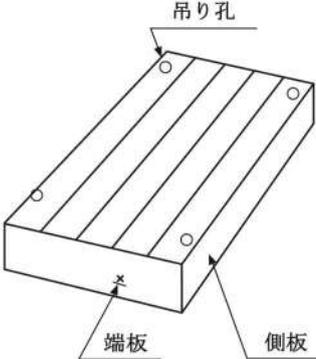
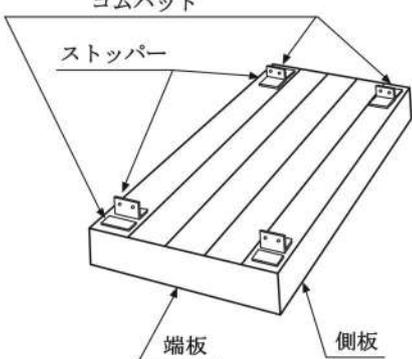
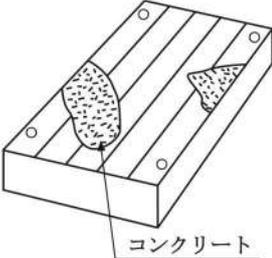
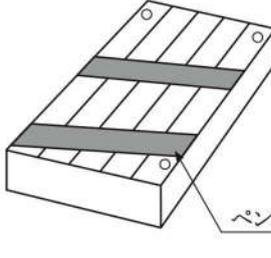
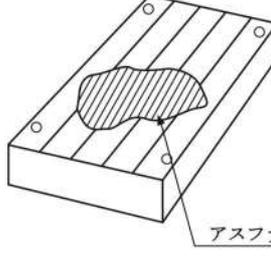
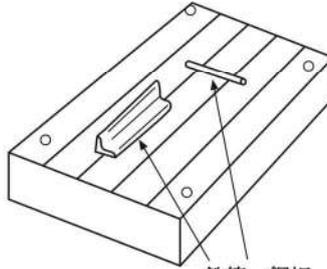
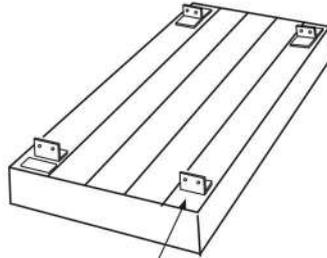
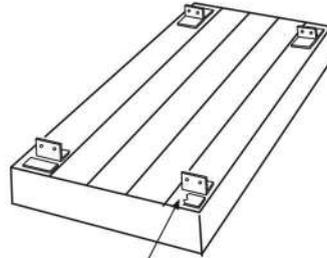
- ▷ 7. 付着物の溶接度合が深く、除去後本体に損傷が残る場合。



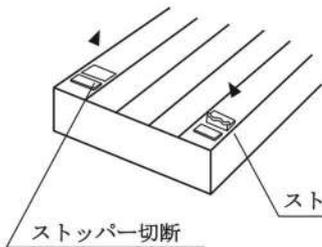
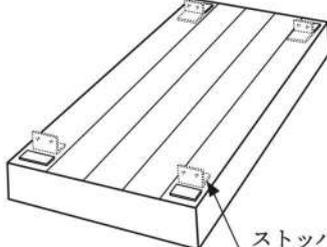
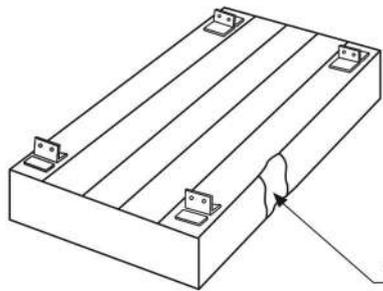
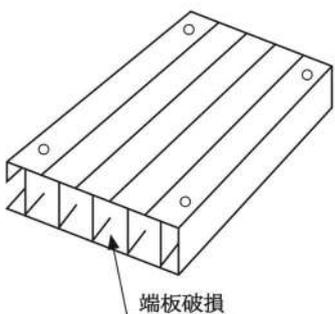
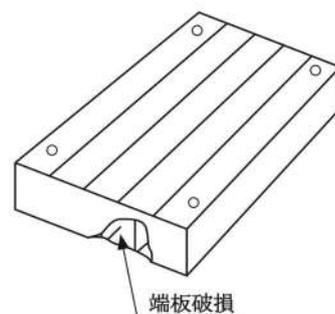
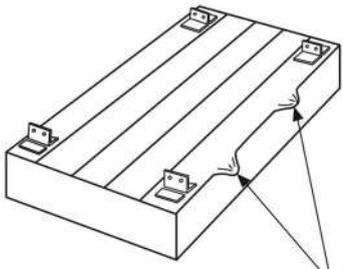
- ▷ 8. アスファルト、樹脂等の付着物を剥離できない場合。
別途、処理費用が発生します。

- ▷ 9. 商品価値を著しく低下させると判断した場合。

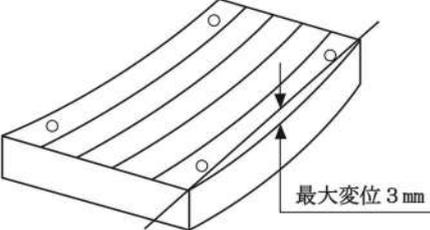
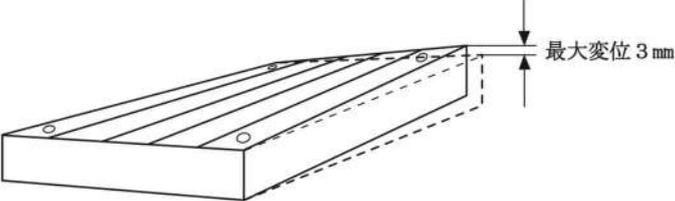
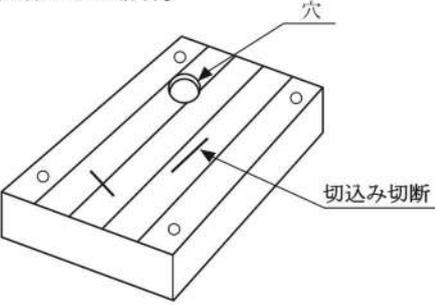
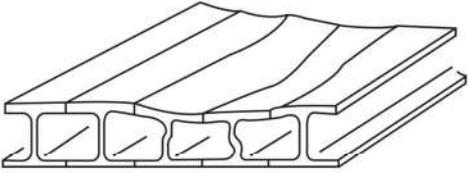
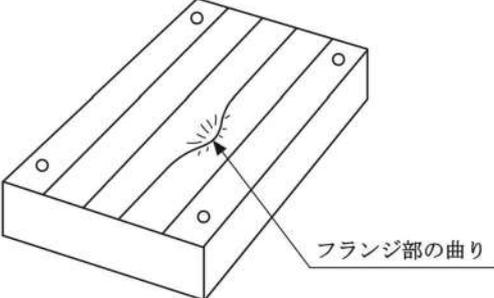
覆工板 (T25 補強型)

項目	検 収 基 準
製品図形及び各部の名称	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>表面</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>裏面</p>  </div> </div>
検 収 一般整備 特別修理 (1) 特別ケレン	<p>土砂のケレン、サビ止め塗装の実施。</p> <p>▷ 1. コンクリートまたは大量の泥土が付着し、通常のケレンでは除去できない場合。 ▷ 2. 表面等にペンキ、アスファルト、樹脂等の付着物がある場合。</p> <p>上記 1、2 には別途処理費用が発生します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>コンクリート</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ペンキ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アスファルト</p> </div> </div>
(2) 付着物切断	<p>鉄筋、鋼板、その他の鋼材等の付着物がある場合。 (1ヶ所当りと換算する場合は300mm単位とします)</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>鉄筋、鋼板、その他の鋼材等</p> </div>
(3) ゴムパット 取替	<p>ゴムパットが脱落または損傷している場合。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ゴムパットなし</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ゴムパット損傷</p> </div> </div>

覆工板 (T25 補強型)

項目	検 収 基 準
(4) ストッパー、調整ピース取替	<p>▷ 1. ストッパー、調整ピースが切断または破損した場合、及び曲り等で再生が不可能な場合。</p> <p>▷ 2. 顧客の指示によりストッパーを取り外して納入した場合。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> ストッパー切断 ストッパー破損 ストッパー納入前外し </p>
スクラップ	<p>▷ 1. 側板が切断または破損した場合、及び曲り等で再生が不可能な場合。</p> <div style="text-align: center;">  <p>側板切断</p> </div> <p>▷ 2. 端板が切断または破損した場合、及び曲り等で再生が不可能な場合。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 端板破損 端板破損 </p> <p>▷ 3. 縞H型钢のフランジ部の曲りで再生不可能な場合。</p> <div style="text-align: center;">  <p>フランジ部の曲り</p> </div>

覆工板 (T25 補強型)

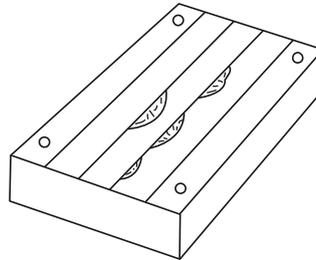
項目	検 収 基 準
スクラップ	<p>▷ 4. 反り、ねじれ、曲りの最大変位は 3 mm 以上の場合。</p>  <p style="text-align: center;">最大変位 3 mm</p> <p>本体のねじれの最大変位が 3 mm 以上の場合。</p>  <p style="text-align: right;">最大変位 3 mm</p> <p>▷ 5. 穴および切込み切断がある場合。</p>  <p style="text-align: right;">穴 切込み切断</p> <p>▷ 6. ウェブに座屈がある場合。</p>  <p>▷ 7. 縞H形鋼のフランジ部の曲がり著しく、再生が不可能な場合。</p>  <p style="text-align: right;">フランジ部の曲り</p>

覆工板 (T25補強型)

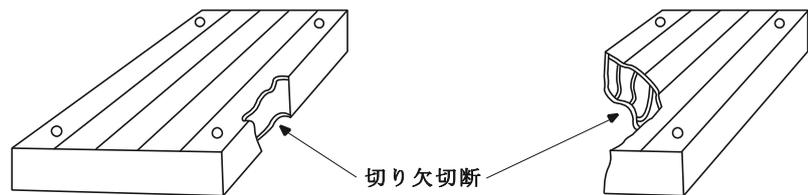
項目	検 収 基 準
----	---------

スクラップ

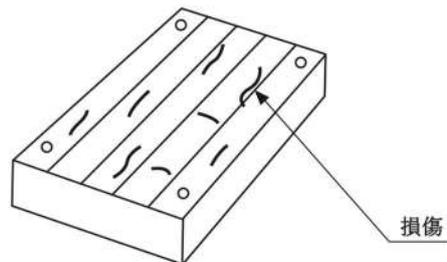
▷ 8. 縞H型鋼のフランジ部の曲り（凹み）が連続的にある場合。



▷ 9. 端部が欠損している場合。



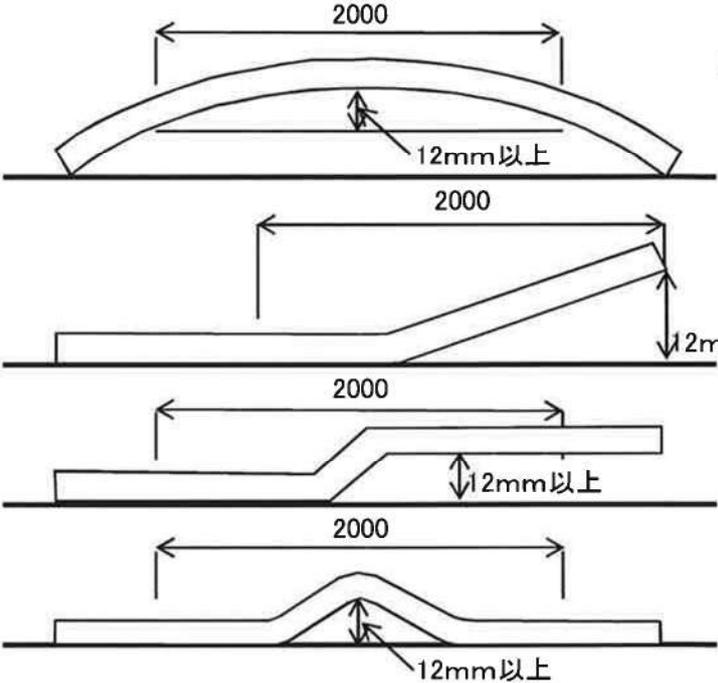
▷ 10. 付着物の溶接度合が深く、除去後本体に損傷が残る場合。



▷ 11. アスファルト、樹脂等の付着物を剥離できない場合。
別途、処理費用が発生します。

▷ 12. 商品価値を著しく低下させると判断した場合。

鋼板

項目	検収基準
一般修理 整備 特別修理	土砂のケレンの軽微なもの。
(1) 特別曲り	<p>下図のように、任意の長さ2000mm内で、12mm以上の曲りの中で、プレスによって修正可能な場合。</p>  <p>※ 鋼板のサイズは関係なく曲りが、12mm以上で返還された場合特別曲りとなります。</p>
(2) 特別ケレン	コンクリート等の付着により、通常のケレンでは修復できない場合。
(3) 付着物切断	製品にアングル、チャンネル、丸棒等が溶接されて返還された場合。 (1ヶ所当りと換算する場合は300mm単位とします。)
(4) 穴埋め	規定の位置の吊り穴以外は全て穴埋めの対象とします。また、穴の大きさにより次の通り区分します。 <p>小穴 Φ 60mm 未満</p> <p>大穴 Φ 61~80mm 以下</p>
(5) 切断 (スクラップ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 穴径 81mm 以上の穴がある場合。 2 深さ、または長さが151mm以上の切断がある場合。 3 修理不能の曲がりがある場合。 <p>以上の場合、その製品の全てをスクラップとします。</p>

【全品種共通事項】

1. 土壌汚染対策法で指定されている特定有害物質が含まれて汚染状態となった建設資機材に関しては、法令違反となるため運搬・受け入れは出来ません。
2. 放射線 0.5 μ Sv/h を超えた建設資機材は受け入れ出来ません。
3. 返却された建設資機材に大量の泥土、コンクリート、アスファルト等の樹脂、凝固剤等が付着した場合、別途処理費用が発生します。

【改定履歴】 昭和55年1月1日 検収基準の統一化策定
平成18年4月1日 全面改訂
平成28年4月1日 一部改訂（覆工板T25 補強型追加他）
令和7年4月1日 一部改訂（覆工板スミデッキ削除他）

（お問合せ先）
一般社団法人 重仮設業協会
〒103-0014
東京都中央区日本橋蛸殻町 1-20-10 ダイアビル 3F
TEL : 03-3667-4816 FAX : 03-3667-4817
<http://www.jukasetsu.or.jp/>
E-mail : jimukyoku@jukasetsu.or.jp